

## 英文校閲の実際 第19話

——英語話者による校閲が常に最善とは限らない

今回の文例 43 では校閲者が修正しなかったけれど、修正すべきであった文例を紹介します。また文例 44 では修正後の文章よりも SD の原文の方がはるかに世間で通用する文例を紹介しません。

文例 43 : Four-week Oral Repeated-dose Toxicity Study in Rats. (2/9)

Results and Discussion より

(校閲前原文) : ④ Increases in body weight and food consumption were seen in females in the 30 mg/kg group or more. ⑤ A tendency towards increase in food consumption was noted in males in each ABC-123 group. ⑥ In hematology, platelet count decreased in the 6 mg/kg group or more. ⑦ Erythrocyte count, hematocrit and hemoglobin concentration decreased in the 6 mg/kg group or more and reticulocyte count increased in females in the 30 mg/kg group and both sexes in the 150 mg/kg group.

(和文) : ④ 30 mg/kg 以上の投薬群の雌に体重と摂餌量の増加が認められた。⑤ ABC-123 の各投与群の雄に摂餌量の増加傾向が認められた。⑥ 血液学的検査では、6 mg/kg 群以上で血小板数が減少した。⑦ 赤血球数、ヘマトクリット値、及びヘモグロビン量が 6 mg/kg 群以上で減少し、網状赤血球数が 30 mg/kg 群の雌と 150 mg/kg 群の雌雄で増加していた。

(校閲後) : ④ Increases in body weight and food consumption were seen in females receiving 30 mg/kg and above. ⑤ A tendency towards increase in food consumption was noted for males in each ABC-123 treated group. ⑥ In the hematology values, platelet counts were decreased in animals receiving 6 mg/kg and above. ⑦ Erythrocyte counts, hematocrit and hemoglobin concentrations were decreased in animals receiving 6 mg/kg and above and reticulocyte counts were increased in females in the 30 mg/kg group and in both sexes receiving 150 mg/kg.

(解説) 原文④の “in females in the 30 mg/kg group or more.” が “in females receiving 30 mg/kg and above.” に修正されました。同様の修正は第 18 話の文例 42 にもあったので繰り返しになりますが、修正理由は 2 つあります。1 つは “or more” が文末に来ると、「～など」の意味になるので、「～以上」の意味にするには “and above” にすべきであること、もう 1 つは “or more” を “and above” に置き換えただけでは、“30 mg/kg group and above” となり、“and above” が “group” を修飾することになることです。校閲者は “receiving” を使用し、“in females receiving 30 mg/kg and above.” に修正しました。この修正の結果 “group” が不要になり、“and above” が直接 “30 mg/kg を修飾して、「30 mg/kg 以上」の意味になりました。

ところで、校閲者は⑤の原文の “A tendency towards increase in food consumption was noted” (摂餌量の増加傾向が認められた) を修正していません。しかしこれはかなり意外なことです。なぜなら、この文章は報告書の文章としてはもったいぶった文語調の悪文だからです。原文⑤がもったいぶった文章になった理由は、主語に抽象名詞 “tendency” (傾向) を用いたからです。“tendency” を主語にすると、その前の不定冠詞やその後の前置詞 “towards” が必要となり、主語が長くなります。もし筆者が校閲者なら、⑤を “Food consumption tended to be increased.” (摂餌量が増加傾向にあった) に修正します。この文章は主語が 2 語と短く、主語

と述語が近接しているので、論旨が明快になっています。また、主語が短い分、文章も原文の9語から6語に短縮されました。一般に報告書英語では、同じ内容を表現する文章が複数ある場合、最も語数が少ない文章が最善であるとみなされます<sup>1)</sup>。しかもこの文章は短いだけでなく、欧米の世間で一般的に使われている文章です。このことは Google USA による以下の検索で確認できます：

- A. (SD・校閲者) “A tendency towards increase in \* was noted”のヒット件数：2件
- B. (筆者・形容詞用法)：“\* tended to be increased”のヒット件数：137,000,000件
- C. (筆者：自動詞用法)：“\* tended to increase”のヒット件数：198,000,000件

上記の検索はワイルドカード検索を使用しています。理由は最初にSDと校閲者による原文、“A tendency towards increase in food consumption was noted”をフレーズ検索したところ、ヒット数がゼロだったからです。このような場合の常套手段として、ヒット数を増やすために、ヒット数を減らす作用を持つ特殊な名詞（この場合は“food consumption”）を“\*”で置き換えたワイルドカード検索を行いました。ワイルドカード検索では“\*”に何が来てもカウントするのでヒット数が大幅に増えるはずですが、ところが実際には、フレーズAのヒット数が殆どないことに驚かされました。これはフレーズAが極めて珍しい文体であることを意味します。一方、筆者提案のフレーズBもフレーズCも、世間では普通に使用されていることが分かりました。

文例⑤の場合は、毒性試験において投薬群と対照群の摂餌量という、2つの数値の比較だけで一方が増加傾向にあると判断しているので、(一方が他方より)「増加した状態にある」という意味の、Bの形容詞用法が適切です。

⑤の“in males”が“for males”に修正されました。理由は、摂餌量の「増加傾向」は動物に「内在する」情報ではなく、観察者が測定などの行為を外部から動物に加えて得られた情報なので、その「外部から」のニュアンスを持つ“for”が使用されたものです。なお、⑤で原文の“ABC-123 group”が、“ABC-123 treated group”に修正されました。理由は論理的により厳密だからです。

⑥・⑦の“Erythrocyte count”、“concentration”、“reticulocyte count”は原文では全て単数形ですが、校閲者はこれらを全て複数形に修正しました。理由は“count”とは計測値を意味し、計測は個体ごとに行うので、これらの計測値は全て複数だからです。

⑦の原文では“in females in the 30 mg/kg group and both sexes in the 150 mg/kg group.”と、“both sexes”の前の“in”が省略されています。しかし、“in females”と“in both sexes”は“in”の次の名詞が同格でないため、後の“in”は省略できません。

文例44 : Four-week Oral Repeated-dose Toxicity Study in Rats. (3/9)

Results and Discussionより

(校閲前原文) : ⑧ MCH increased in the 30 mg/kg group or more. ⑨ MCV increased in females in the 6 mg/kg group and both sexes in the 30 mg/kg group or more. ⑩ MCHC decreased in the 150 mg/kg group. ⑪ In blood chemistry, total protein decreased in the 6 mg/kg group or more and albumin decreased in males in the 6 mg/kg group or more.

(和文) : ⑧ MCH が 30 mg/kg 群以上で増加した。⑨ MCV は 6 mg/kg 群の雄と 30 mg/kg 群の雌雄で増加した。⑩ MCHC は 150 mg/kg 群で減少した。⑪ 血液生化学検査の結果では、6 mg/kg 群以上で総タンパクが減少し、6 mg/kg 群以上の雄でアルブミンが減少した。

(校閲後) : ⑧ MCH was increased in animals receiving 30 mg/kg and above. ⑨ MCV was

increased in females in the 6 mg/kg group and in both sexes receiving 30 mg/kg and above. ⑩ MCHC was decreased in the 150 mg/kg group. ⑪ In the blood chemistry results, total protein was decreased in animals receiving 6 mg/kg and above and albumin was decreased in males receiving 6 mg/kg and above.

(解説) SD は原文⑧から⑪まで、投薬後の各種のパラメーター値の増減を記載する場合に、全て自動詞“increased”または“decreased”を使用しています。しかし、これらはすべて誤りで、校閲者は全てを形容詞“was increased”または“was decreased”に修正しました。

増加を表す場合の自動詞“increased”と形容詞“was increased”の使い分けについては、第7話の文例14の解説で詳細に説明していますので、必要な方はご参照ください。要は自動詞の“increased”や“decreased”は、肉眼やグラフ上で継続的な増減が確認できる場合に用います。文例44の場合は、投薬群と対照群の数値の比較で増減を論じています。これらの数値は別々の個体群の平均値であり、この場合の増減には継続性はありません。この場合は、一方が他方に対して「増加あるいは減少した状態にあった」という意味の形容詞“was increased”または“was decreased”を使います。

また、原文⑧・⑨・⑪の文末に、“or more”が計4回使われていますが、校閲者は全て“and above”に修正しました。理由は前の文例42と43で説明しましたので繰り返しになりますが、要は文末に“or more”を使用すると「～など」の意味になるので、「～以上」と言いたい場合は“and above”を使うべきこと、しかし単に“or more”を“and above”に置換しただけでは“group and above”となり、“and above”が“group”を修飾することになるので、校閲者は“receiving”を用いて“group”を不要にし、“and above”が投与量を直接修飾して、「～mg/kg 以上」の意味になるように修正しました。

原文⑪の書き出しの“In blood chemistry,”が“In the blood chemistry results,”に修正されました。“blood chemistry”が学問名なので、“In blood chemistry,”は「血液生化学という学問では」という意味にもなりうるため、校閲者は“results”を追加して、「血液生化学検査の結果では」と、論理的に正し文章に修正しました。ただし、原文も慣用的によく使用されているので、修正する必要がなかったのです。このことはGoogle USAによる以下の検索で分かります：

- A. (SDによる原文) “In blood chemistry,” のヒット数： 407,000 件
- B. (校閲者の修正文) “In the blood chemistry results,” のヒット数： 780 件

すなわち、AのSDによる原文のほうがBの校閲者による修正文よりも400倍以上もヒット数が多く、世間では校閲者による修正文は殆ど使用されていないことが分かりました。

今回、文例43では校閲者が修正しなかったけれど、修正すべきであったと思われる文例を指摘し、文例44では校閲者によって修正された文章よりもSDの原文の方がはるかに世間で通用する例を紹介しました。いずれの場合も、世間でよく使用されているかの判断は、Google USA (<https://www.google.com/webhp?gl=us&hl=en>) の検索によって判定しました。読者諸賢も、英文報告書を書きながらどの表現が正しいか迷った場合や、校閲結果に納得がいかない場合は是非、適切な検索を行って、正しい表現を自力で判定してください。フレーズ検索やワイルドカード検索の具体的方法は第3話で解説しています。

(馬屋原 宏)

#### 引用文献

- 1) Nohynek, G. J.: Presenting Toxicology Results, Taylor & Francis Ltd., London (1996)